

研修会参加報告

平成25年度 認定一般検査技師研修会 （『血尿診断ガイドライン2013』の概要説明）

栞本 健（検査科副技師長）

このたび「平成25年度 認定一般検査技師研修会」に参加させていただき、その中で『血尿診断ガイドライン2013』の発刊にあたっての概要説明がありましたので、以下にご報告いたします。

『血尿診断ガイドライン』は2006年3月に初刊され、今回の『ガイドライン2013』は7年ぶりの改訂となり、今年5月に発刊されました。

改訂版の作成には、日本腎臓学会、日本泌尿器科学会などが参画し、血尿診断に関するガイドラインでは以前のテキスト形式から世界で初めてクリニカルクエスション（CQ）方式を採用し、推奨グレードを決定するなど、より臨床現場で活用しやすいものとなったようです。



構成は、5つの大きなセクションの中に21のCQが納まっている内容となっています。前回との大きな変更点として、無症候性顕微鏡的血尿で尿路上皮癌のスクリーニングが陰性となった場合の対応が、以前では陰性でも定期的なスクリーニングを推奨することが多かったのですが、今回の改訂版では、肉眼的血尿や排尿障害などの症状が出現しない限り、再スクリーニングは不要となっているところだそうです。（CQ10参照）

その他、検査に関連するCQとしましては、血尿の基準や尿中赤血球形態においては尿沈渣検査法指針提案GP1-P4に準拠して行うことが勧められることが記載されています。当検査センターでは、検査のCQに関しては、ステートメントで記されている内容にそった検査を行っており、特にCQ5での尿中赤血球形態では、尿沈渣のご依頼時に血尿の場合は必ず鏡検を行い、赤血球形態を確認しております。

最後になりますが、このような意義のある研修会に参加させていただきありがとうございました。先生方に信頼される検査報告が提供できるよう検査のエビデンスをしっかりと持って日々努力していきたいと思っておりますので、どうぞご指導のほどよろしく願いいたします。